教育情報
いび
第１１０号
令和６年５月２２日（水）
揖斐郡教育研修センター

新しい時代を生きる子供たちへ
～ 今、私たちにできること、しなければならないこと ～

揖斐郡教育会　会長　香田　静夫

学校教育は、社会を形成する人材の育成を目的の一つとしている。ならば私たちは、どういった社会をつくろうとしているのかを明確にする必要がある。そのうえで、子供たちに育成すべき資質や能力等はどうあるとよいのか、そのための学校教育はどうあるべきかを、幅広くより深く考え、議論し、実践していかなければならない。

「グローバル社会」の進展が言われて久しい。国家や地域を越えて、互いに影響を与え合う社会。政治や経済だけでなく、スポーツや芸術、技術や情報など、様々な分野でボーダーフリーな交流が行われるようになっている。では、私たちの日常はどう変わったのか。

“オール岐阜”、“揖斐郡は一つ”と言うけれど、本当にそうだろうか。まだまだ地理的な区割りや旧来の利害関係に縛られた狭い視野の中で物事をとらえ、同調的な思考から抜け出せないでいるように思えてならない。ならば、新しい時代を生きる子供たちには、川を渡り、山を越え、その向こう側にいる様々な人たちとつながり合って、共に生きる新しい社会をつくってもらいたい。

「多様性が尊重される社会」が求められて久しい。異なる言語や文化、指向や志向、立場や状況、事情や背景をもった人々がそれぞれの価値観を包含し認め合うことが大切にされる社会。その中から生まれる創造性や競争力が、世の中を変えていく力の源泉ともなるに違いない。では、私たちの日常はどう変わりつつあるのか。

そもそも多様性とは、マジョリティがマイノリティを受容するということではない。多様性を理解するというのは、自分自身のことを世の中の多様性の一人として認知し、生きていくことではないか。ならば、新しい時代を生きる子供たちには、出来－不出来、美－醜、巧－拙、優－劣、貧－富、強－弱、大－小、長－短といった異質性や優越性を乗り越え、様々な人たちとつながり合って、共に生きる社会をつくってもらいたい。

「持続可能な社会」の実現が言われて久しい。自然環境を壊さず、限りある資源も使い過ぎず、美しく、豊かな地球で平和に暮らしていける社会を実現し、次の世代へと引き継いでいかなければならない。では、私たちの日常はどう変わろうとしているのか。

これまで人類は、より便利で快適な生活が送れるようにと、試行錯誤しながら、開拓や開発、整備や改善を繰り返してきたが、地球的規模の異常気象や資源の枯渇、食糧危機、国際紛争などの諸問題が深刻化し、いよいよ立ち行かなくなっている。そうした中、ようやくSDGsが世界標準とされ、2030年までに達成すべき17の目標が示された。ならば、新しい時代を生きる子供たちには、身近なところから環境保護や福祉ボランティア、人権尊重、平和社会といった今日的な課題について考え、実践する世界中の人たちとつながり合って、共に生きる社会をつくってもらいたい。

貧困や虐待、ＤＶや性被害・加害、若年層の自殺といった生命（いのち）の危機から子供たちを守ること、ネットトラブルやいじめの問題、暴力行為や触法行為等の問題行動を防ぎ、適切に対応すること、そして、障がいをもつ児童生徒や不登校の児童生徒等、個々の状況に配慮した多様な学びを保障することなど、これまで以上に学校に寄せられる期待は大きい。

だからこそ、揖斐郡の学校は、「一人一人、一人の子供を、真に大切にする教育を行っている」と静かに胸を張りたい。先生方にあっては、しんどい毎日が続いていることと思いますが、丁寧に、粘り強く、一緒に頑張ろうではありませんか。どうぞ宜しくお願いいたします。

令和６年度揖斐郡教育研修センター　運営方針

1. 「開かれた研修センター」として、「教職員にとって多様で有効な研修の場」を設けるとともに、「郡内の教職員が必要とする教育情報」を提供できるよう、揖斐郡小中学校校長会や各町の教育委員会と連携して、郡センターの機能を発揮していく。
（揖斐郡の教職員・児童生徒・保護者から必要とされ、信頼される郡センター経営と事業推進）
2. 一人一人の児童生徒の個性の伸長や自己肯定感がもつことをめざした児童・生徒文化事業を工夫して行うとともに、優れた取組や成果を郡内の各小中学校が共有できるよう働きかける。
（「揖斐郡はひとつ」との思いを強くもち、揖斐郡の児童・生徒の成長につながることに焦点化して事業を充実させる）
3. ほほえみ教室を核にして、郡小中校長会や各校の教育相談カウンセラーと連携し、健康安全や教育相談活動等の充実を図り、気軽に利用できる学校教育・社会教育の窓口となるよう努める。
4. ＴＥＡＭＳによるオンライン会議やグーグルフォーム、郡センターＨＰを郡内の教育活動の充実や郡内教職員の事務のスリム化につなげるなど揖斐郡におけるＩＣＴ活用推進の中心的な存在としての機能を高める。　（学校の教育活動への貢献）

令和６年度　揖斐郡教育会の組織

【役　員】			
会　長	香田　静夫	様	（郡教育長会会長、揖斐川町教育長）
副会長	桑原　浩美	様	（大野町教育長）
副会長	髙橋　利行	様	（池田町教育長）
【理　事】			
郡教育委員会連絡協議会代表	中村　昌秀	様	（池田町教育長職務代理者、教育委員）
揖斐県事務所代表	棚瀬　正樹	様	（揖斐県事務所副所長兼振興防災課長）
郡ＰＴＡ連合会会長	髙田　敦人	様	（池田中学校ＰＴＡ会長）
郡公民館長会代表	久保田　聡	様	（池田町中央公民館館長）
郡学校教育職員代表	國枝　実成	様	（池田町学校教育課長）
郡社会教育職員代表	松久　秀紀	様	（揖斐川町社会教育課長）
郡小中学校校長会会長	澤田　辰男	様	（大野町立南小学校長）
郡小中学校校長会研修統轄	河村　茂雄	様	（池田町立池田中学校長）
郡教育研修センター所長	富山　哲成	様	（揖斐川町学校教育課長）
【監　事】			
揖斐郡町村会長	宇佐美晃三	様	（大野町長）
【事務局】			
郡教育研修センター主幹	中村　孝広		（郡教育会事務局　郡学校保健会事務局）
〃	福田　昌彦		（ほほえみ教室室長　郡 PTA 連合会事務局）

令和６年度　揖斐郡研修センター運営委員

運営委員長	郡教育研修センター所長	富山　哲成	様	（揖斐川町学校教育課長）
	郡小中学校校長会　会長	澤田　辰男	様	（大野町立南小学校長）
	〃　研修統轄	河村　茂雄	様	（池田町立池田中学校長）
	〃　研修部長	中島　勝義	様	（揖斐川町立北方小学校長）
	〃　研修部長	山田　剛	様	（揖斐川町立揖斐小学校長）
	〃　研修部長	香田みどり	様	（池田町立八幡小学校長）
	〃　研修部長	所　久寛	様	（大野町立大野小学校長）
	郡小中学校教頭会　会長	香田　明彦	様	（揖斐川町立清水小学校教頭）
	揖斐郡教育研修センター主幹	中村　孝広		
	〃	福田　昌彦		

令和６年度　揖斐郡教育研修センター職員　（敬称略）

揖斐郡教育研修センター	所長	富山　哲成		
揖斐郡教育研修センター主幹（チーフ）		中村　孝広		
揖斐郡教育研修センター主幹（ほほえみ教室室長）		福田　昌彦		
揖斐郡教育研修センター事務主任		細野　かおり		
教育相談（ほほえみ教室）指導員	福田　恭子	小寺　すずゑ	倉知　知子	前原　政典

令和6年度の教育研究員派遣事業

令和６年度も令和５年度に引き続き、「揖斐郡教育研究員派遣事業」を実施します。

Ⅰ　教育研修員派遣事業の目的

教育研究員派遣事業の目的は次の２点です。

（１）揖斐郡内の教職員の人材育成をめざす。（揖斐郡教育を担うリーダーの育成）
（２）揖斐郡内の各学校の教育活動の充実や教職員の指導力の向上をめざす。（教育研究員の派遣による各学校及び郡内教職員の指導力の向上）

Ⅱ　教育研究員の活動内容

（１）・（２）の目的を具現するために教育研究員の先生方には次の活動を行っていただきます。

① 全校研究会の講師、部研等の講師
② 校内研修会の講師（指導助言）
③ 若手教職員への指導等
④ 実践発表や実技指導等
⑤ その他派遣校と研究員で調整した内容

Ⅲ　教育研究員の先生方に指導していただく教科・領域

令和６年度の教育研究員の先生方には次の内容を指導していただきます。

国語、社会、算数・数学、理科、英語（外国語科）、保健体育、特別の教科道徳、特別活動

Ⅳ　令和６年度揖斐郡教育研究員の先生方

令和６年度は次の２７名の先生方に教育研究員をお願いしております。よろしくお願い致します。

令和６年度郡教育研究員

教科	所属校	研究員	教科	所属校	研究員
国語	揖斐小	若原　美恵先生	理科	大野小	小椋　紀幸先生
国語	谷汲小	窪田　裕介先生	理科	揖斐川中	西川　駿介先生
国語	北小	杉山　　悠先生	理科	池田中	藤原　玄宜先生
国語	東小	杉山　貴紀先生	英語（外国語）	温知小	林　　孝行先生
社会	揖斐川中	笠井　慎吾先生	保健体育	揖斐川中	野原　佳希先生
社会	北和中	竹中　正人先生	保健体育	北和中	石垣　　仁先生
社会	大野中	野原　克洋先生	保健体育	揖東中	髙木　雄基先生
算数・数学	北方小	松浦　茉李先生	道徳	揖斐小	大坪　洋輝先生
算数・数学	西小	堀口　貴司先生	道徳	北方小	道家　信彦先生
算数・数学	中小	後藤　義史先生	道徳	八幡小	玉井　輝久先生
算数・数学	池田小	久保田朋憲先生	道徳	揖斐川中	髙島　大輔先生
算数・数学	大野中	久保田　修先生	道徳	池田中	林　　幸成先生
算数・数学	揖東中	川合　秀明先生	特別活動	中小	若林　希美先生
算数・数学	池田中	橋本　真里先生	令和６年度揖斐郡教育研究員　２７名		

令和6年度児童文化事業（各作品展）の嘱託主任・代表者

作品展名		所属校	嘱託主任及び代表
郡科学作品展	嘱託主任	揖斐川中	西川　駿介　先生
郡社会科課題追究作品展	嘱託主任	池田中	林　　幸成　先生
郡図工美術作品展	嘱託主任	養基小	上津　志緒　先生
郡感想文コンクール	郡代表	池田小	西田　千尋　先生
郡ふれあい作品展	郡代表	揖斐川中	中村　敦夫　先生

令和６年度　授業ライブラリー

揖斐郡教育会では、「揖斐郡教育研修センター」のホームページ内に、「授業ライブラリー」を設置しています。ライブラリーには、郡内の先生方が研究・実践・検証された貴重な指導案が数多く保管され、日常の実践に活用できるようにしています。
ています。

（１）授業ライブラリーコンテンツ

揖斐郡教育研修センターHP の授業ライブラリーには下記の５９２のコンテンツがデータベース化してアップしてあります。
平成２４年度～令和５年度の合計は以下の通り　　全ライブラリー数＝５９２コンテンツ

国語	１１２	保健体育	１９
社会	３５	技術・家庭科	９
生活科	６	英語・外国語	２８
算数・数学	１４８	総合的な学習	１
理科	２１	道徳	１３８
音楽	１０	特別活動	１９
図工・美術	１	特別支援教育	３５

（２）令和６年度の授業ライブラリーの重点　　【授業ライブラリーの活用】

令和６年度には授業ライブリーの活用を促し、授業ライブラリー資料を生きたものにするために揖斐郡教育研修センターでは、次のことに取り組みますので、学校等での活用推進をお願いします。

- 授業ライブラリーのねらいを明確にするセンター通信を発行し、各校で回覧して全職員が業ライブラリーについて理解できるようにしていきます。
- 授業ライブラリーの活用を促すポスターを作成し、職員室に掲示し、校内研等の指導案作成や日常的の授業づくりで授業ライブラリーを活用する校内体制を各校で築けるようにします。
（授業ライブラリーについても記載した郡センターのポスターを５月初めに各校に配付しました）
- 授業ライブラリーを題材にした校内研修を各校で実施してきただき、全職員が授業ライブラリーに目を通し、自分がよいと思った実践や活用できると思った資料を見つけるとともに、実際に活用した経験や成果をアンケートフォームで回収し、授業ライブラリーの意義や有効性を郡内の各学校に広めていくようにします。

実践論文ライブラリー

揖斐郡教育会では「教育の基本的な課題をふまえ、小中学校の教育現場に密着した継続的・累積的な実践研究論文の募集及び検証を通して揖斐郡教育の振興を図り、教職員の専門性を高める」ことを 目的に「揖斐郡教育実践論文事業」を行っています。

また、そうした取組に関わって「実践論文ライブラリー」のページを作成し、揖斐郡内で取り組まれた実践論文をデータベース化し、「いつでも」過去の実践論文の成果を実践に生かしていけるようにしています。

令和５年度は郡教育研修総会の前に各校の先生方に実践論文ライブラリーを閲覧していただきました。

実践論文に取り組まれた先生方の教育に対する情熱、児童生徒への愛情、実践の様々な工夫が揖斐郡内の各先生方にとって生きるものになるように閲覧･活用をよろしくお願い致します。

揖斐郡教育研修センタホームページ

揖斐郡教育研修センターでは「学校で活用でき、郡内の教育活動の充実を図るコンテンツ」をまとめた授業ライブラリーを作成し、郡内の先生方の指導力の向上に取り組んでいます。

また児童生徒の頑張りを紹介する作品展のページや、教職員の仕事のスリム化を図るための動画配信、郡内の先生方の意見を郡教育研修センターの運営に反映させるアンケートフォームなどを設けています。

令和６年度は授業ライブラーの有効活用の推進を目標にしています。ぜひ、ご活用のほどお願い致します。

揖斐郡学校保健会ホームページ

揖斐郡学校保健会では令和４年度の岐阜県学校保健研究大会揖斐郡大会の際に郡学校保健会ホームページを開設し、郡学校保健会の重点である「郡三師会と学校とが連携した学校保健教育や事業の充実」のための連携を図ることができるようにしています。

また、郡学校保健会のホームページに郡学校保健研修総会、郡三師会と養護教諭との交流会、いびの子のからだ、郡学校環境衛生活動、県学校保健研究大会の成果等を掲載しています。

揖斐郡学校保健会に所属する養護教諭・保健主事・栄養教諭・体育主任の先生をはじめ、郡内の各先生方にも活用していただき、郡内の学校保健の向上につなげていきたいと考えておりますのでよろしくお願いします。

最近の不登校児童生徒の状況

揖斐郡教育会適応指導教室
ほほえみ教室

揖斐郡教育研修センターでは、不登校やいじめ等の児童生徒が直面している問題を、保護者・学校と連携しながら解決できるよう、教育相談・適応指導を行っています。

１　最近の状況と考察　郡内児童生徒数　４，８９４名（－２２４名）（R6.3.1 現在）

	R元	R２	R３	R４	R５
郡内全児童生徒数	５，６３６	５，４６７	５，３２８	５，１１８	４，８９４
（増減）	（－１３８）	（－１６９）	（－１３９）	（－２１０）	（－２２４）
（小学校）	３，６０６	３，５０５	３，４０３	３，２７８	３，１５４
（中学校）	２，０３０	１，９６２	１，９２５	１，８４０	１，７４０
相　談　件　数	１５３	９２	１７９	３７６	２４８
（うち不登校相談）	１２５	７８	８９	３７６	１７７
※不登校児童生徒数	９４	１０２	１３８	１４１	１５９
ほほえみ通室生数	７	９	９	１７	２９
（学校復帰）		３	４	３	１０
（高校進学）		１	（２）	３	５
（就職）					
（教室継続）	６	４	３	９	１０
（その他）	１	１	２	２	２

※不登校児童生徒数とは１ヶ月７日以上連続の欠席または授業の過半数を超える欠席者数
※高校進学（２）は、学校復帰した生徒の内数

～毎月の「不登校傾向の児童生徒の状況」の調査（Ｒ６年３月現在）から～

○年間欠席日数	３０日～　９９日	９９名（小学校　４９名、中学校　５０名）
	１００日～１９９日	５２名（小学校　１９名、中学校　３３名）
	２００日～	８名（小学校　２名、中学校　６名）
	合計	１５９名（小学校　７０名、中学校　８９名）

令和５年度の状況を見てみると、一昨年同様、児童生徒数が減少しているにもかかわらず、不登校児童生徒数とも増加しており、過去最高です。令和５年度も年度当初は、順調な滑り出しでしたが、５月の連休を過ぎて６月あたりから、不登校児童生徒の数が多くなっています。その要因も無気力・不安が圧倒的に多く、対象児童生徒の感情コントロールにかかる対応をしていく必要があると考えられます。児童生徒のアセスメントをとる段階でより的確な状況把握と、本人たちの立場に立った支援、そしてそれを支える保護者に対するサポートも必要不可欠です。その両面を踏まえた支援体制の構築が、今求められています。

また、よく若い先生方から、「誰に相談していいかわからない」「どんな対応をしたら良いかわからない」という声を聞きます。是非、下記の教育相談研修会に参加いただき、その不安を解消していただきたいと思います。

令和６年度　ほほえみ教室　心の相談会

	開催日	時間	会場
①	５月２９日（水）	14:00～16:30	郡センター相談室
②	６月１９日（水）	15:30～17:00 （教育相談研修会後）	池田町中央公民館
③	９月１８日（水）	14:00～16:30	郡センター相談室
④	１０月９日（水）	14:00～16:30	郡センター相談室
⑤	１２月４日（水）	15:30～17:00 （教育相談研修会後）	地域交流センター「はなもも」
⑥	１月２２日（水）	14:00～16:30	郡センター相談室
⑦	２月１９日（水）	14:00～16:30	郡センター相談室

保護者と先生のための教育相談研修会

	教育相談研修会開催日	時間	会場
①	６月１９日（水）	14:00～15:20	池田町中央公民館
②	１２月４日（水）	14:00～15:20	地域交流センター「はなもも」